

平成23年度  
福祉サービス第三者評価 報告書

社会福祉法人こうほうえん  
認可保育所  
キッズタウン24第2保育園 様

2012年3月28日

評価機関：特定非営利活動法人 メイアイヘルプユー

鳥取県認証評価機関  
認証番号 福祉サービス第三者評価（第8号）

## 目 次

	ページ
実施概要 .....	1
I 組織マネジメント項目 .....	3
II サービス提供のプロセス項目 .....	15
III サービスの実施項目 .....	21
総評 .....	27

(添付資料)

### ◆ 職員自己評価・利用者調査 集計結果

## 【実施概要】

### 1. 実施スケジュール

- (1) 第三者評価についての事前説明 平成 23 年 11 月 15 日
- (2) 情報収集の実施（調査）
  - ①利用者調査 平成 23 年 12 月 10 日～12 月 25 日
  - ②職員自己評価 平成 23 年 12 月 10 日～12 月 25 日
  - ③経営層自己評価 平成 23 年 11 月 15 日～12 月 31 日
  - ④訪問調査 平成 24 年 1 月 25 日・26 日

### 2. 評価の実施方法

東京都福祉サービス評価推進機構が定める手法

### 3. 利用者調査

- (1) 調査の方法 アンケート調査
- (2) 調査対象者数 通園している子どもの保護者 52 名

### 4. 評価調査者

新津 ふみ子（組織マネジメント項目担当）  
北村 とし子（サービス提供のプロセス項目・サービスの実施項目）  
山田 道子（サービス提供のプロセス項目・サービスの実施項目）

### 5. 評価決定合議日

平成 24 年 2 月 23 日

### 6. 本評価に関する問い合わせ

- (1) 本評価調査責任者 NPO 法人メイアイヘルプユー 新津 ふみ子
- (2) 評価責任者 NPO 法人メイアイヘルプユー 代表理事 新津ふみ子
- (3) 連絡先  
NPO 法人メイアイヘルプユー事務局  
〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-31-9 シーバード五反田 401  
電話：03-3494-9033 / FAX：03-3494-9032

## I 組織マネジメント項目(カテゴリ1～5、7、8)

No.	共通評価項目	
	カテゴリ1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリ1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 <b>9/9</b>
	<b>評価項目1</b> 事業所が目指していること(理念、基本方針)を明確化・周知している <b>評点(〇〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を明示している ○非該当
	●あり ○なし	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	3. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている ○非該当
	●あり ○なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を思い起こすことができる取り組みを行っている(会議中に確認できるなど) ○非該当
	<b>評価項目2</b> 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている <b>評点(〇〇)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている ○非該当
	●あり ○なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している ○非該当
	<b>評価項目3</b> 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している <b>評点(〇〇〇)</b>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている ○非該当
	●あり ○なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している ○非該当
	●あり ○なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えて いる ○非該当

## カテゴリー1の講評

### 法人の理念と保育理念を定め、周知に努めている

法人としての理念に加え、保育サービスの特徴を踏まえ保育理念を策定している。また保育方針と保育目標を定め、園内に掲示、関係者などへ配布数の多いリーフレット、また保護者などに配付する「入園のしおり」に掲載している。日常的には法人理念の具現化に向け、職員としての行動基準を小冊子「互恵互助」に表し、全職員に配付している。朝礼ではこの冊子の項目を読み合わせ、また保育実践上迷った時など、保育指針と共に活用に努めている。利用者への周知は、「入園のしおり」を活用して入園時に説明。また保護者会で取り上げている。

### 園長は、「互恵互助」と「保育目標」の実践を課題とし、役割と責任を果たしている

園長の職務内容は、法人が定める「職務権限表」に明示しているが、法人内他事業所の高齢者施設の施設長と同じ職務内容であり、現状の職務と一部不適合な内容がある。また、主任層についても職務が不明確であり、保育所の職務に対応した内容にすることが求められる。園長は「互恵互助」を行動の指針とし、保育目標の実践と同時に、0、1歳の子どもの保育を担当しているため、安全管理を最優先の課題とし、職員指導に当たっている。また職員からの提案を重要視し、吸い上げることをに努めている。

### 現場の案件・課題は検討されているが、その手順等について職員への周知が課題である

現場の課題は、各チームで検討される。本園としての方針や課題の検討は、主任と各チームのリーダーで構成される、月1回の「主任・リーダー会」である。そして全職員を対象とした、職員会議、及びチーム会で報告するプロセスである。しかし、職員自己評価では、重要な案件を検討する手順や決定された内容の周知について、理解できていると回答した割合は約4～6割弱である。各種会議や委員会等についてその目的や役割、担当者、検討事項等の明示、そして利用者への重要案件の周知も含め一覧表にする等、分かりやすくするための取り組みが求められる。

2			カテゴリー2	
2			経営における社会的責任	
			サブカテゴリー1(2-1)	
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している		<input type="radio"/> 非該当	
			サブカテゴリー2(2-2)	
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている			サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7/7
評価項目1 事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目2 ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている		<input type="radio"/> 非該当	
評価項目3 地域の関係機関との連携を図っている			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している		<input type="radio"/> 非該当	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている		<input type="radio"/> 非該当	

## カテゴリー2の講評

### 法人として守るべき規範、倫理を明示し、周知に取り組んでいる

福祉サービスに従事する者として、守るべき規範・倫理については「互恵互助」、職員倫理綱領・就業規則に明示、保育に特化した内容については、保育所保育指針に関する園内研修、外部のスーパーバイザーが参加する複雑な課題を持つ子どもに関する事例検討の際に、子どもの権利などを考える機会としている。また、倫理観や保育者としての姿勢や心得などを自己点検する機会として3か月毎に「職員セルフチェック表」を使い確認し、記入後は主任に提出している。この項目に関する職員調査では、肯定率は約6割に止まり、更なる取り組みが求められる。

### 事業の透明性を意識した取り組みがある

第三者評価の受審は、平成19年以降2回目であり、今後、継続的に受審する方針がある。本園は、子育て支援センターを併設し利用率も高く、このセンターは、地域への出前講座の実施や支援センター便りなどを地域の公民館などに定期的に配布するなど、地域住民に周知されやすい状況がある。一方、法人のホームページには、本園の概要の掲載に止まり、保育内容などを含む本園の紹介は今後の課題としている。

### 子育て支援センターの機能を活用、また関係機関との連携を意識している

地域福祉に役立つ取り組みとして、行政委託の子育て支援センターの活動があり、計画的に地域の公民館に出向き育児講座、育児相談や地域の子育てグループの支援、また行事(音楽コンサートなど)の際には、登録している子どもたちのみではなく、その友達なども参加している。専門学校への講師派遣、ボランティアとして地域の中学校から職場体験を受け入れている。地域の関係機関との連携は、行政、医療機関、警察、小学校などの関係機関をリストアップし掲示、また要保護児童に関する行政の会議など関係機関との定期的な会議に参加している。

3			カテゴリ-3	
3			利用者意向や地域・事業環境の把握と活用	
			サブカテゴリ-1(3-1)	
			利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	
			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			6/8	
評価項目1			利用者一人ひとりの意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応している(苦情解決制度を含む)	
			評点(〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		○非該当	
◎あり ○なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる		○非該当	
評価項目2			利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる	
			評点(〇〇〇)	
評価	標準項目			
◎あり ○なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している		○非該当	
◎あり ○なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる		○非該当	
評価項目3			地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している	
			評点(〇●●)	
評価	標準項目			
○あり ●なし	1. 地域の福祉ニーズの収集(地域での聞き取り、地域懇談会など)に取り組んでいる		○非該当	
◎あり ○なし	2. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)の収集に取り組んでいる		○非該当	
○あり ●なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している		○非該当	
カテゴリ-3の講評				
<p><b>苦情・意向の解決に取り組んでいるが、さらに対応についての明確さが求められる</b></p> <p>苦情受付窓口と第三者委員を園内に掲示、また入園時の説明文書である「入園のしおり」には、苦情解決について明示し、苦情解決の方法と外部の相談先などについて説明している。利用者からの苦情は、連絡帳、電話・メールなどで寄せられるが、即座に園長が対応することを基本とし、関係職員と協議、解決策を出している。クレームの重要度を園長が判断し、職員に回覧することもあるが、現在、リスクマネージャーの活動が軌道に乗っていないこともあり、法人が指定する報告書への記載は滞っている。苦情解決のプロセスの明示と職員への周知が課題である。</p> <p><b>意向の把握の機会を計画しサービスの向上に努めている</b></p> <p>利用者の意向把握の機会として、毎年法人として実施するアンケート、及び保育園としては毎年1回以上、随時にアンケートを実施している。この結果は、併設する「かみごとう」の園長と本園長が集計・分析し、対応方法を明示し、園内に掲示すると共に保護者に配付している。「苦情は宝」とする法人の方針を受けた取り組みはあるが、今回の第三者評価で実施した利用者(保護者)調査では、設問「要望や不満を言いやすいか」に対し、40.5%が「はい」と回答、「要望などへの対応」については、67.6%の肯定率である。更なる充実を期待する。</p> <p><b>地域・事業環境に関する情報の把握と分析を課題とした、組織的な取り組みが求められる</b></p> <p>地域の福祉ニーズの把握は、子育て支援センターや一時保育の利用者が持つニーズなどから推測できることがある。しかし、本園が所在する行政や地域の課題、保育園の利用意向状況などについて意識的・計画的に把握する取り組みは認められない。福祉事業全体の動向については、法人内外研修会などで把握できる。しかし、今後の取り組みに向けた、地域のニーズや福祉事業全体の動向を分析する機会が、定かではない。行政資料からは、入園希望児童の待機はゼロと報告されている。職員への周知は今後の課題である。</p>				



カテゴリ-4		
4	計画の策定と着実な実行	
サブカテゴリ-1(4-1)		
実践的な課題・計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 11/11
評価項目1 取り組み期間に応じた課題・計画を策定している		
評点(000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 年度単位の計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 短期の活動についても、計画的(担当者・スケジュールの設定など)に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している		
評点(0000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画は、サービスの現状(利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、想定されるリスク(利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など)を踏まえて策定している	<input type="radio"/> 非該当
評価項目3 着実な計画の実行に取り組んでいる		
評点(0000)		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画推進の方法(体制、職員の役割や活動内容など)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを図る指標を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリ-2(4-2)

利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況 **4/4**

評価項目1  
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる 評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
◎あり ○なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○非該当
◎あり ○なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○非該当
◎あり ○なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○非該当
◎あり ○なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○非該当

カテゴリ-4の講評

**法人として計画策定の様式を定め、取り組んでいる**

法人として中長期計画を定め、各事業所(部門)の年間計画は、様式「部門別目標管理記録」に記載する仕組みである。法人が定めた目標を本園が所属するエリアとして方針を定め、それを受けて事業所(保育園)として、年間目標とそれを達成するために改善しなければならない問題・課題を具体化するプロセスである。本園では、23年度は保育目標に対し、課題を13項目挙げているが、改善すべき課題なのか、通常の活動なのか区別がつかない。年間の成果を確認しやすくするためにも検討を期待する。行事などの取り組みは、担当者が企画し取り組んでいる。

**事業計画の策定、進捗管理に際し、職員の参加が課題である**

本園の計画は、チーム会(クラス別担当)で話し合い、リーダーがまとめ、主任会議で検討・確認し、園長が文書化している。進捗状況は主任会・リーダー会でその都度確認する仕組みである。策定に際し、利用者アンケート、法人内保育園間の会議での情報交換・事例検討などを参考にしている。一方、園長は策定の時期や手順の曖昧さを認識しているが、職員調査でも一般職員は、計画策定の手順や職員の参加に関する項目で、「できている」と回答した人は6割弱である。また、計画には課題を解決する担当者の明示は無いなど、再検討を期待する。

**安全確保の充実を期している**

安全確保のため、感染症・急病対応・不審者・虐待対応・事故発生対応などのマニュアルがある。法人としてはリスクマネジメント体制を構築、本園では取り組みを開始している。感染症については、行政からの情報などを活用し看護師が予防対策を提案している。また嘱託医に依頼し研修会を実施している。事故・ヒヤリハットに関しては、法人の仕組みに準じ「いろんなこと報告書」に記載、エリアに報告する仕組みであり、園内では、その都度園長・主任とクラス担当者が検討し再発防止策を講じている。災害に関しては、取り組みを開始したところである。

カテゴリー5		
5 職員と組織の能力向上		
サブカテゴリー1(5-1)		
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/8
評価項目1 事業所にとって必要な人材構成にしている		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 事業所の人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
評価項目2 職員の質の向上に取り組んでいる		評点(○●●●●)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	3. 個人別の育成(研修)計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得(取得)などの視点を入れて策定している	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成(研修)計画に基づいて、必要な支援をしている	<input type="radio"/> 非該当
<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし	5. 職員の研修成果を確認し(研修時・研修直後・研修数ヶ月後など)、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリー2(5-2)		
職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7
評価項目1 職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる		評点(○○○)
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	<input type="radio"/> 非該当

評価項目2 職員のやる気向上に取り組んでいる		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬(賃金、昇進・昇格、賞賛など)が連動した人材マネジメントを行っている	○非該当
●あり ○なし	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど)を把握し、改善に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○非該当
●あり ○なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○非該当
カテゴリー5の講評		
<p><b>法人として人事制度を明示し適用しているが、さらに一般職員への周知が課題である</b></p> <p>法人として人事制度に関する方針を明示し、人事考課制度を導入している。しかし、職員自己評価の「人事制度に関する方針(人材像、職員育成・評価の考え方)の明示」について、一般職員による肯定的な回答は31.6%であり、周知が課題である。職員体制は、常勤雇用を基本とし、また園として力を入れている点に、定員を上回る人員配置がある。職員のクラス配置に際し、毎年意向を調査し、反映させるようにしている。しかし、適材適所の配置について職員自己評価では、肯定率は21.1%であり、要因分析が求められる。</p> <p><b>研修などの機会を充実させているが、個人別目標管理は今後の課題である</b></p> <p>法人が大切にしている価値観の一つに「職員こそ大事」と表し、法人として人材育成に積極的に取り組んでいる。本園の特徴は、外部のスーパーバイザーを招聘した、ほぼ2か月毎の内部研修や各クラスの公開保育とその後の意見交換会等である。職員調査でも研修に関する肯定的なコメントがある一方、研修参加ができ難いという不満がある。また法人内他事業所はすでに実行している人事考課・目標管理表を使っての個人別育成計画の作成は、今年度から開始し、主任が面接を実施したが、まだ職員間で個人差があり、あまり活用できていない。今後の充実が望まれる。</p> <p><b>やる気の向上への取り組みはあるが、人材マネジメント分野について課題がある</b></p> <p>職員のやる気の向上に影響している取り組みとして、公開保育・園内研修を挙げている。就業状況に関しては、年休が取りやすく、メンタルヘルス対策は法人として、心の健康委員会や労働安全委員会の開催、専門職による個別相談の機会がある。しかし、職員自己評価では、賃金体系や評価について不満が挙げられ、事業所の特性を踏まえた職員の育成・評価・報酬など人材マネジメントについて肯定率は5割を切る。要因分析が求められる。</p>		

7			カテゴリ-7	
7			情報の保護・共有	
			サブカテゴリ-1(7-1)	
情報の保護・共有に取り組んでいる			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
			6/7	
評価項目1			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる			評点(○○●)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している		○非該当	
●あり ○なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要ときに活用できるように整理・保管している		○非該当	
○あり ●なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している		○非該当	
評価項目2			サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	
個人情報、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している			評点(○○○○)	
評価	標準項目			
●あり ○なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している		○非該当	
●あり ○なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している		○非該当	
●あり ○なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している		○非該当	
●あり ○なし	4. 個人情報の保護について職員(実習生やボランティアを含む)が理解し行動できるための取り組みを行っている		○非該当	
カテゴリ-7の講評				
<p>職員別のパスワード設定などにより、情報保護への取り組みがある</p> <p>職員一人ひとりのパスワードを設定し、情報のアクセス権限を明確にしている。また使用目的により、アクセス制限がされている。本部から発信されるメールは、職員全員がアクセスできる情報と各階層や委員会に配信される内容があり、パスワードで管理できる仕組みである。紙ベースで伝達する情報は「社外秘」として取り扱っている。利用者に関する個別情報は、事務室のかぎ付き戸棚に保管している。紙ベースで保管する情報は課題別・分野別にファイルしているが、更新などに関しては、まだ検討の余地があるとしている。</p> <p>個人情報保護については、規程を策定し、研修などにより周知している</p> <p>個人情報保護法の趣旨を踏まえ、法人として「個人情報保護規程」を策定し取り組んでいる。この規程には、個人情報保護基本方針・利用目的・開示請求が明示されている。利用者への周知として、園内掲示はあるが、さらに「入園のしおり」の活用なども必要と思われる。職員への周知は、個人情報取り扱いマニュアルに沿って対応し、新人研修で説明、誓約書を取っている。しかし、職員自己評価では、項目「個人情報の保護に関する規定の明示」に関し「知らない・わからない」の回答率は26.3%であり、職員に対しての周知の取り組みが求められる。</p>				

カテゴリ-8	
8	カテゴリ-1～7に関する活動成果
サブカテゴリ-1(8-1)	
前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-1:「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリ-2:「経営における社会的責任」 ・カテゴリ-4:「計画の策定と着実な実行」	<input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>理念・基本方針を意識した実践に取り組み、課題を意識している</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・基本方針及び行動規範・倫理の周知を課題とし、「互恵互助」唱和と読み合わせを朝礼で取り組んでいる。園長はさらに理解を深めるためチーム会でも取り上げたいとしている。</li> <li>・事業計画に挙げた、「地域包括ケアに向けた事業展開」については、取り組みが不十分であり、検討課題としている。</li> <li>・平成14年開設時は、24時間の開所であったが、近年、延長保育や夜間保育の希望者が減少している現状について、併設する「キッズタウン24かみごと」の職員も含めて討議し、法人に稟議を挙げ承認を得て、現状に見合う時間帯に開園時間を変更している。平成23年度、夜間基本開所時間内の22時までに変更している。</li> </ul>	
サブカテゴリ-2(8-2)	
前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-5:「職員と組織の能力向上」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>研修などの企画・実践力が向上している</p> <p>園長は、各種会議の役割と機能に関する認識が進み、組織的な活動ができるようになってきたこと、また、研修担当者(会)、活動や行事などを担当する会についても、主体的に計画を立案し、取り組み、企画力・実践力が向上していると評価している。このような成果が見られる要因として、職員の定着率の高さと外部のスーパーバイザーを活用した内部研修の定着が影響している。</p>	
サブカテゴリ-3(8-3)	
前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している	
評価項目1	
前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、以下のカテゴリで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリ-6:「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリ-7:「情報の保護・共有」	<input checked="" type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない <input type="radio"/> 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
<p>本園の保育目標の実践に計画的に取り組んでいる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本園の保育目標「心も体も元気な子」を受け、今年度は、体力づくりや生活リズムに重点を置き指導計画にもり込んでいる。各チームで具体的な保育内容を検討し、実践している。</li> <li>・見学者を受け入れる時の標準化を課題とし、帳票「見学者メモ」を作成している。園の特徴や料金についても明示し、誰もが説明できるようになっている。</li> </ul>	

サブカテゴリ-4(8-4)

事業所の財政等において向上している

評価項目1

財政状態や収支バランスの改善に向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

収支バランスは安定している

・財政状況について事務担当者からの実績報告は毎月実施、省エネ・省資源の意識化が進んでいる。  
 ・0.1歳児が対象であり、途中の他園への変更は収入に大きく影響するので、在園率を上げること、途中退園を減らすこと、退園後の入園までの日数を短くすることが課題である。今年度は在園率のアップはできなかったが、退職者の補充を行わず、職員の勤務調整で対応した。

サブカテゴリ-5(8-5)

前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している

評価項目1

前年度(比較困難な場合は可能な期間で)と比べて、利用者満足や以下のカテゴリで評価される部分において改善傾向を示している

- 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない
- 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

・カテゴリ3:「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」

改善の成果

保護者アンケートの結果を受け止め、保育内容などに工夫している

利用者(保護者)アンケートを踏まえ、写真代の値下げをした。また、生活発表会や運動会の行事についても、保護者の要望を受け、併設する保育園とは別々に実施する体制に変更した。その結果、年齢に合った内容での実施が可能となり、保護者からはゆっくりと参観することができたと好評を得ている。

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
	サブカテゴリ1	
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 4/4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(0000)</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	○非該当	
	●あり ○なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
	○非該当	
	サブカテゴリ1の講評	
	<b>本園の情報は、ホームページ、リーフレットで情報提供している</b> 利用希望者に対する本園の情報はホームページ、リーフレット及び自治体が作成している保育所一覧等にも掲載されている。ホームページは、法人本部が作成し、本園は法人が運営する一事業所として、所在地などの紹介にとどまっている。また、ホームページを補完する目的でリーフレットを作成している。リーフレットは併設の「かみごとう保育園」と合同で法人のカラー(グリーン)を基調とし手作りしたものであり、保育理念・方針と共に、両園の概要、サービス内容、利用時間、クラス編成等を掲載している。	
	<b>関係機関等へは子育て支援事業を通じて園の状況を伝えている</b> リーフレットは、職員による手作りで、作成に当たりプロジェクトを立ち上げ、両園の違い(サービス提供時間、対象年齢等)や仕組みのわかり易さに工夫した。このリーフレットは、見学希望者を中心に配付している。園の情報は、自治体より委託されている子育て支援センターで、実施している事業などの開催のお知らせや活動を通じて、市内の他園子育て支援センター、公民館等の関係機関へ、また、自治体が保育所一覧、広報誌作成の折にも提供している。	
	<b>見学者メモを使い、見学者に対する説明内容を一定にしている</b> 問い合わせ、見学に対応するのは原則的に両園長(本園・併設園)としているが、不在の場合はスタッフが対応する場合もあり、誰が対応しても一致した説明ができるよう今年度より様式「見学者メモ」を作成した。見学者メモは見学者に必ず説明する事項に園の特徴(2つの園で形成、その特長)、延長料金等と共に入園の決定権は自治体であることを強調している。見学の曜日や時間は原則的に月～金、9時～18時としているが保護者の就労状況に応じて柔軟に対応し、子どもが活動している時間帯の見学を勧めている。	
	サブカテゴリ2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況 6/6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている <p style="text-align: right;">評点(000)</p>	
	評価	標準項目
	●あり ○なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している
	○非該当	
	●あり ○なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている
	○非該当	
	●あり ○なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している
	○非該当	



<b>評価項目2</b> サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当

サブカテゴリー2の講評

**「入園のしおり」を使い重要事項等の説明をしている**

本園の入園対象児は0歳、1歳児である。入園説明会を開催し、園長が併設園と共通の「入園のしおり」(法人の理念、保育方針、年齢別の発達状況、園での1日の流れ、感染症の登園基準、保育に必要な物品、登降園のルール、保育料等を詳細に記載)を使い重要事項、基本ルールについて説明している。特に本園の開園時間は10時からであり、それ以前の登園には延長料金が発生、また、年齢によって併設園に移行し通園時間も変更になるなど、サービス提供の仕組みが複雑であることを鑑み、保護者の質問に答える形で丁寧に説明している。

**子どもの情報は保護者が記載する生活状況調査表を基に個別面談を実施し把握している**

入園後に必要な子どもの情報は、予め保護者が記載した様式「生活状況調査表」(食事について飲ませ方、食べさせ方、睡眠については寝かせ方や寝つき、アレルギーの有無等)と、それを基に担任が子ども・保護者と個別面談をした聞き取りの結果を記載した「生活状況個人票」により把握している。生活状況は、特に睡眠、食事やアレルギーの有無等と保護者の就労状況について、これに加えて困っていること、保育上の留意点を聞き取り、子どもの支援に活かしている。面談の際、保護者の意向は様式「聞き取りシート」に記載し把握している。

**ならし保育の期間は保護者の就労状況に合わせ柔軟に設定している**

環境変化に対する子ども・保護者の不安等の軽減に「ならし保育」を奨めている。「ならし保育」は2週間ほど在園時間を少しずつ延長させ、園の環境に慣れるのが理想ではあるが保護者の就労状況により幅がある。また、登降園時に連絡帳、口頭で、さらにサービス開始1か月後に個別面談を実施し、子どもの様子を詳細に伝えて保護者の不安軽減に努めている。本園を卒園すると自動的に併設園に移行するため(2歳児からは併設園に所属)卒園によるサービス終了に対する不安等は殆どなく、中途退園の場合は健康調査表にて移行先と連携を図っている。

サブカテゴリー3

3	個別状況に応じた計画策定・記録	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	12 / 12
---	-----------------	-------------------	---------

<b>評価項目1</b> 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		<b>評点(〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目2</b> 子どもの様子や保護者の希望、関係者の意見を取り入れた指導計画を作成している		<b>評点(〇〇〇〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画は、保育課程を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画は、子どもの様子や保護者の希望を尊重して作成、見直しをしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 計画を保護者にわかりやすく説明している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直ししている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 計画を緊急に変更する場合のしきみを整備している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子ども一人ひとりに関する情報を過不足なく記載するしきみがある	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	<input type="radio"/> 非該当

<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 計画の内容や個人の記録を、支援を担当する職員すべてが共有し、活用している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	<input type="radio"/> 非該当

**サブカテゴリ3の講評**

**子どもの心身状況や生活状況等は児童票・面接シート・個人懇談記録から把握している**  
 子どもの心身、生活状況(アセスメント)等は、入園時に保護者が記載した「生活状況調査表」等を基に面談者が子どもと保護者に面談した内容を記載した面接シート、児童票より、加えて入園後は、個別面談、日々家庭の様子を記録した連絡帳、保育経過記録、月案、週案の実施状況から把握している。これらの情報を基にクラス担当の複数の保育士が主任の指導を受け月案を立案している。また、児童票等の見直しについては、進級時の保護者との個人面談で行っている。

**園長、主任等を構成メンバーとする「月案検討会」で妥当性について確認している**  
 月案は保育過程と発達に応じた年間指導計画(養護・教育面)を踏まえ、毎日の視診表、連絡帳等から子どもや保護者のニーズを把握し、個々の月案に反映させている。なお園が標準化している「月案作成手順」に沿い、「月案検討会」を経て作成している。月案検討会は、園長、主任、各クラスの月案作成担当者で構成され、前月の月案の評価・反省を基に、各年齢のプランが系統性、一貫性を持ったものであるかまたは、実施の妥当性を確認している。保護者への説明は個人懇談、連絡帳等で行っている。

**子ども一人ひとりについての情報は、個別記録、朝礼や視診表で共有している**  
 子どもごとの記録には、発達を意識した児童票、視診表、週日記録、保育経過記録、連絡帳等がある。保育経過記録(発達状況、発達が見られた月齢)は、具体的な支援である養護(例:食事、睡眠、排泄他)と遊びを視診表、週日記録、連絡帳等から把握し記載している。0歳児は、その内容を毎月、見直し1歳児以上は、3期に分けて見直しをしている。子ども一人ひとりの日々の状況は、朝礼、視診表で確認し、申し送り、引き継ぎにより職員間で共有している。また、月案検討会は事例検討も兼ねており、必要に応じて朝礼時にその内容を伝えている。

サブカテゴリ-5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 7/7
<b>評価項目1</b> 子どものプライバシー保護を徹底している <p style="text-align: right;">評点(〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 子どもに関する情報(事項)を外部和やりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<b>評価項目2</b> サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇〇)</p>		
評価	標準項目	
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、放任、虐待、無視等が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に予防・再発防止対策を徹底している	<input type="radio"/> 非該当
<input checked="" type="radio"/> あり <input type="radio"/> なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	<input type="radio"/> 非該当
サブカテゴリ-5の講評		
<b>子どもの個人情報の利用目的を明確にして年度ごとに同意を得ている</b> 子どもの個人情報の利用に関して、法人の定めるプライバシーポリシーに沿い利用目的を明確にしている。入園時に園だより・クラスだより、新聞・雑誌等の取材、法人の広報誌・ホームページ等への氏名、写真掲載の可否に付いて同意を得、且つ、年度ごとにあらためて確認している。法人内の事例発表時には、対象児の保護者へ記事・写真掲載内容を説明し了解を得ている。また、保護者への緊急連絡は園から直接、保護者に電話で伝え、保護者間のメール等の連絡網はプライバシーに配慮して作成していない。		
<b>価値観や生活習慣は尊重する方針である</b> 羞恥心を身につける必要性は意識して持っているが、低年齢ということも有り、おむつ交換等特段の配慮はしていない。なお、プライバシーについて子どもの作品を廊下に展示する際、個人名が特定され易い漢字表記ではなくひらがなで氏名を記載するなど配慮している。子どもを尊重する意味からも誕生会を大切な行事と捉え、また、子どもや保護者の持つ価値観、生活習慣は尊重する方針である。しかし、保護者の都合で登園時間に大幅に遅れることにより保育に影響がある場合は、保護者と話し合いを繰り返し、歩みあえるよう努めている。		
<b>職員による不適切な言動などに関する、さらなる取り組みが求められる</b> 園長は自治体が開催する要保護児童対策地域協議会で、育児困難家庭等の支援について研修を受ける機会があり、職員にはその伝達研修を実施している。また被虐待児の情報は家庭相談支援センターに連絡し、その事例検討に対象児のクラス担当職員が参加することもあ。職員による子どもへの不適切な言動の予防対策のひとつ「セルフチェックシート」(法人の職員としての倫理観に基づく基本姿勢をチェックする様式、年3回実施)により、職員は内省の機会もある。さらに、この活用も含め、職員の不適切な言動などを課題とし話し合う機会が求められる。		

## サブカテゴリ-6

6 事業所業務の標準化

サブカテゴリ毎の  
標準項目実施状況

11/11

## 評価項目1

手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうかを点検している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○非該当

## 評価項目2

サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○非該当
●あり ○なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○非該当
●あり ○なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○非該当

## 評価項目3

さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○非該当
●あり ○なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○非該当
●あり ○なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した支援ができるようにしている	○非該当
●あり ○なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○非該当
●あり ○なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○非該当

### サブカテゴリ6の講評

#### 活用頻度の高い手順書は感染症、事故対応に関してである

業務の標準化の取り組みに各種手順書を作成している。手順書は、入退所、登降園、遊び、散歩、保育士業務など多岐にわたりファイル化している。中でも感染症、事故対応に関しての手順書は常用されている。これらの手順書は、各クラスの担当委員が実情に合った手順を文書化したもので、平易な言葉で具体的に表現し、わかり易さに工夫している。また、サービスが手順どおり提供されているかについて、年2回、法人内部監査等のシステムで点検している。

#### 職員、保護者の意見・提案は基本事項の改善に活かしている

サービスの基本事項や手順の変更時は職員、保護者の意見を反映させる方針がある。職員は各種会議で、保護者は行事後のアンケート、懇談会、連絡帳等で提案できる仕組みである。最近、改善した例は保護者アンケートより運動会、生活発表会を併設園と別の日に開催している。その結果、年齢にあったペースで子どもと楽しめたなど好評であった。また、職員からの提案で、外用薬を預かり塗布している場合は、1か月毎に継続の可否について保護者に確認することを取り決め実施している。

#### 研修や指導体制など業務の水準確保に取り組んでいる

手順等の変更に関して朝会や各種会議で職員間に周知されるよう図っている。また、職員は充実した内部研修受講の機会があり、時には外部講師によるスーパーバイズを受けることもできる。そして分からないことは日常的にリーダー、主任、園長等にアドバイスを受け易い雰囲気が根付いている。なお、子どもの安全性確保は優先課題として取り組んでいる。子どもの生活空間は担当者、点検箇所を決め毎日チェック、園庭の大型遊具は業者が修理時期等の基準を決め点検している。AEDを使っでの救急救命講習も職員全員が受講している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施項目		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	
		35 / 37	
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた援助を行っている			
		評点(〇〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 子ども一人ひとりの発達の過程や生活環境などにより子どもの全体的な姿を把握している		○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境構成を工夫している		○非該当
●あり ○なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう援助している		○非該当
●あり ○なし	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している		○非該当
●あり ○なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている		○非該当
評価項目1の講評			
<p>一人ひとりの発達過程を把握し、自然も取り込み、自由に遊べる保育環境を整えている</p> <p>子ども一人ひとりの発達の過程は児童票の経過記録や週日記録、視診表、連絡帳より、生活状況は送迎時の保護者とのコミュニケーションからも把握している。本園は「心も体も元気な子」を掲げ、子どもが自由に遊びを選択できる環境を整備している。0、1歳児の発達に配慮された保育室での玩具やコーナー遊び、園庭や広い遊戯室での体を使った遊びなどである。また、生き物の飼育や四季の草花、野菜(栽培)に接するなど自然を感じさせる環境も整えており、ここでは併設園(2歳児以上)の子ども達とも日常的に触れ合っている。</p> <p>異年齢交流があり、発達に見合った様々な絵本から興味関心を広げている</p> <p>本園は0、1歳児のみの保育であるが、2歳以上の子どもたちを保育する併設園と交流ができる。自由遊びや行事などでは異年齢で交流する機会も多く、園庭や遊戯室での遊びには併設園の子どもが声を掛けてくれたり、一緒に遊んでくれたりしている。本園には充実した絵本コーナーが備えられ、保育士は発達に見合った絵本を取り上げ子どもたちに読み聞かせを行っており、子どもが様々な絵本から興味、関心を広げるきっかけにもなっている。毎月のクラスだよりでも絵本の紹介をするなど、家庭と共通の話題となるように取り組んでいる。</p> <p>配慮が必要な子どもも受け入れ、子ども同士のトラブルは気持ちを受け止め対応している</p> <p>障がい等、特別な配慮を必要とする子どもも普通に受け入れるのは園の方針である。アレルギー疾患の子ども等の食事等は保育士が傍に付き援助して、周囲の子どもには「今は〇ちゃんは食べられないのよ」などと伝えている。子ども同士のトラブルについては、保育士が仲立ちをして、互いの子どもの気持ちを代弁して落ち着かせている。チーム会議やリーダー会議でトラブルの要因や対策を話し合い、個別指導計画に配慮点とすることもある。保護者には発達の過程(かみつき等)で起こりやすいなど理解を求める手紙を出すこともある。</p>			
2 評価項目2 家庭と保育所の生活の連続性を意識して保育を行っている			
		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
●あり ○なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している		○非該当
●あり ○なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう支援を行っている		○非該当
●あり ○なし	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している		○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている		○非該当

評価項目2の講評

0、1歳児は特に保護者との連携を大切に、登園時は丁寧に家庭での様子を聞いている

登園時はクラス担任が子どもと保護者の受け入れにあたるようにし、0歳児は看護師も同席している。保育士は保護者と共に子どもの表情、顔色、機嫌、十分な睡眠をとっているかなど健康状態(薬預かり含む)を保護者に丁寧に確認し、視診表やクラスノートに記載している。0、1歳児は特に保護者との連携を大切に、園が独自に作成した連絡帳を使用し家庭での生活リズムや食事、排泄等も詳細に把握できるようにしている。子どもに関するこれらの情報は各クラスで個別に記録され保育活動や引き継ぎ等にも活用される。

0歳児は個々に応じた生活リズムに配慮し、1歳児は自立に向けて援助している

年齢別保育目標に、0歳児は「個々の生活を整え、安心して生活をする」、1歳児は「安心できる保育者の関係の下で、自分でしようとする気持ちが芽生える」とある。具体的な個別指導計画(月案)はこの保育目標のもとに保育指針の生命の保持、情緒の安定、養護(食事、排泄、清潔他)を踏まえて作成している。例えば、0歳児はおむつ交換、授乳、食事等は個々に応じた生活リズムを大切に、1歳児では食事や排泄等は個々の状態に合わせて、自立に向けて援助を行うなどである。休息(昼寝)は子どもの状態に応じた配慮と対処をしている。

一人ひとりの保護者に園生活での健康状態や子どもの状況をきちんと伝えている

お迎えは保護者の利用時間により異なるが、クラス担任は視診表とクラスノートを確認しながら一人ひとりの保護者に園生活での健康状態を最初に伝えている。特に登園時に子どもが泣いたり、機嫌が悪かったりして、そのまま出勤した保護者にはその後の状況を丁寧に話し、保護者を安心させている。また、服薬や食事、排泄、遊びなどは連絡帳に記載し、さらに、口頭でもきちんと伝えている。「健康」については延長保育の引き継ぎでも同様に十分留意して行っている。一方、お迎えの玄関には各クラスの当日の活動報告を掲示している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 日常の保育の内容は保育目標を反映して構成されている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当

評価項目3の講評

保育目標に「心も体も元気な子」を掲げ、「個別指導計画」に具体化している

「心も体も元気な子」を保育目標に掲げ、保育アドバイザーの助言も受けて年間指導計画、個別指導計画(月案)を作成している。個別指導計画は保育目標の四つの重点目標(安心、認め合う、チャレンジする、生命を尊ぶ)を念頭に、年齢別(0、1歳児)の保育目標を立て実施している。月案は育てたい内容、保育士の関わりや環境構成等を個別に記載している。本園では保育内容を充実させるために、月1回、園内研修(遊び、生活リズム等)や保育アドバイザーの指導で園内での公開保育(年1回)を実施している。

玩具や遊具は感覚機能や運動機能を踏まえて用意され、遊びの幅を広げている

保育目標の四つの重点項目の中の「様々なことに興味を持ち、意欲的にチャレンジする」に対応し、発達段階に即して作成した個別指導計画をもとに、遊びの環境を整備している。0、1歳児の玩具や遊具は視覚、聴覚などの感覚機能と、座る、歩くなどの運動機能を踏まえて用意されている。例えば、0歳児では保育士が手作りした段ボールの家を出たり入ったりの探索活動遊び、1歳児は秘密基地としてのコーナーで、保育士と一緒に色々な素材を使った遊びなどである。一斉保育では園全体(併設園も)で歌える今月の歌やクレヨン画なども楽しんでいる。

情緒の安定を図りながら、身の回りの様々なものに出会わせ支援している

園のしおりに子どもの発達の姿と保育の1日の流れを記載するなど、園生活での子どもの遊びの時間を大切にしている。特に0、1歳児は情緒の安定を図りながら身の回りの様々なものに出会わせるとしているが、それらは本園の恵まれた環境を通して行われている。園内の随所で、生き物の飼育や草花が植えられている。それらは子どもの興味、関心を得、また気分転換にもなっている。天候が悪い日などは園内を散歩し、他のクラスの子とも達と交流している。計画的な散歩や併設園の子も達の栽培活動を見るなど、日常的に季節を感じる体験ができています。

4 評価項目4 行事等を通して、日常の保育に変化と潤いを持たせるよう工夫をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 子どもが興味を持ち、自ら進んで取り組めるような行事等を実施している	○非該当
●あり ○なし	3. 行事等を行うときは、保護者の理解が得られるような工夫をしている	○非該当
●あり ○なし	4. 保育所の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○非該当

評価項目4の講評

0、1歳児に合わせた「ミニ運動会」、「ミニ生活発表会」に取り組んでいる

行事はこれまで、併設園と合同で前年度の反省から保護者の要望等も参考に、主任リーダー会議で発達段階を踏まえた企画をし、担当者を決め職員会議で話し合い実施してきた。しかし、保護者から行事は別々にとの要望が出され、検討を重ね今年度より、「ミニ運動会」、「ミニ生活発表会」として別々に実施している。0、1歳児の「ミニ運動会」は原っぱでかけっこ等を行い、ゆったりと楽しめたのではないかと保護者の感想より評価している。この他、親子遠足等や子どものみの行事は併設園と合同で行い、年上の子どもと一緒に雰囲気を楽しんでいる。

行事についての保護者への予定表の複数回配付、終了後は感想を聞き次回に活かしている

年度の始めに年間行事予定表を保護者に配付しているが、行事を行う前に手紙を出して行事のねらいや内容を園長は丁寧に説明している。行事終了後はその様子を園全体のキッズタウンだより、クラスだよりに掲載し、廊下へも掲示している。また個々の子どもの連絡帳で活動の成果や振り返りを報告している。利用者調査からは行事の内容には満足だが、ミニ運動会などの平日開催については、不満とする保護者もあり、曜日設定は課題としている。

次世代育成や世代間交流に取り組み、子どもが色々な人に出会う機会を確保している

保育課程の地域交流の観点から、併設園と一緒に積極的な次世代育成や世代間交流に取り組んでいる。法人が運営する隣接の高齢者福祉施設とは子ども達は自然に交流しており、地域へはチラシ、ポスターの掲示等で計画的に園の行事を知らせ、地域の人々と触れ合う機会を作っている(夏祭り、餅つき大会など)。低年齢ということもあり地域に出て行く活動の機会は、特に設けてはいないが、職場体験の中高生や授業の一環で受け入れている大学生などと触れ合い、出会う機会を確保している。

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保育時間の長い子どもが、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	2. 年齢の違う子どもとも楽しく遊べるような配慮をしている	○非該当
●あり ○なし	3. 子どもの様子を確実な方法により職員間で引き継いでいる	○非該当
●あり ○なし	4. お迎え時には、子どもの日中の様子(担任からの引き継ぎ事項等を含む)を保護者に直接伝えている	○非該当



評価項目5の講評

保育時間の長い子どもには、スキンシップ遊びを意識し、甘えや要求に応えている

本園の平常保育は10時～22時迄である。夕食時(17時半頃)より1歳児の保育室で合同保育となり、20時以降は仮眠をとるとしている。しかし、現状は19時～20時迄に降園する子どもが殆どである。夕食後の過ごし方は、できるだけリラックスできるように、抱っこやおんぶなど、一人ひとりの子どもの甘えや要求に応じてスキンシップを多くしている。子どもは畳コーナーで、寝転んで玩具であそんだり、絵本を見るなどしており、保育士は声を掛けながら子どもに寄り添い見守っている。

引き継ぎはクラスノートと視診表で確実に実施している

0、1歳児のみの本園は、併設園の年上の子ども達とは、日常的に関わり遊ぶ機会が多くあり、違和感がなく接している。担任保育士のローテーションによる引き継ぎは、子どもの健康状態にとりわけ留意しており、事前にクラスの複数の保育士で子どもの様子を視診表とクラスノートで入念に確認し行っている。また、園では毎日、朝礼を行い、子どもの様子等の申し送り事項を職員間で共有している。

迎への保護者には特に健康状態について丁寧に伝えている

お迎えの保護者には園生活での健康状態(機嫌、食事、排泄、お昼寝他)を視診表、クラスノートを見ながら伝え、服薬がある時は確かに服薬したことを確認し子どもの様子を丁寧に伝えている。また、登園時に保護者からの依頼や問い合わせ等を受けていた場合は、それらにもきちんと対応している。日中の保育活動の様子は個別の連絡帳等に記載し、全体の保育活動の様子は週日案やクラスノートを見て伝えている。

6 評価項目6

子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
●あり ○なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
●あり ○なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	5. 保育所の食育に関する取り組みを、保護者に対して伝える活動をしている	○ 非該当

評価項目6の講評

食育目標「楽しく食べる元気な子ども」を掲げ、0、1歳児の食事を支援している

本園の食育目標は、「楽しく食べる元気な子」とし、年間の目標を「保育者や友達と楽しい食事をする中で愛情や信頼感を育み、自立心を育て、人とかかわる力を養う」など、3項目を掲げ食事支援をしている。0歳児は2階、1歳児は1階の保育室で食事を摂るが、両保育室とも園庭や山々が見渡せ落ち着いた環境である。0歳児は個別に配慮した食事(離乳食、幼児食等)を保育士が声をかけながら優しく援助している。1歳児は成長に合わせた椅子とテーブルにグループで座り、友達と一緒に保育士の励ましの言葉と見守りの中で食べている。

給食委員会で献立の検討を行い、離乳食は発達に応じた対応をしている

献立については園長、主任、クラス担任、看護師、栄養士、厨房職員参加の「給食委員会」(月1回)で検討している。事前にクラス担任より献立等に関する提案(幼児食への移行他)、検討事項が出されており、各立場からの発言を献立に反映させている。献立は、地元の食材にこだわり、自前の煮出し汁を使い、薄味で和食を中心にした内容である。そして食べられない、アレルギー疾患等の子ども(医師の指示書提出)への配慮をしている。また、0歳児の離乳食は、保護者と相談の上、それぞれの発達状況に応じた対応をしている。

栽培や調理活動を見学し雰囲気を味わい、保護者にはクラスだより等で知らせている

年間の食育目標の中に「五感を使って実体験することにより食に対する知識を育て、自らも含めたすべての命を大切にすることを養う」とあるが、実際の0、1歳児は保育士と共に併設園の活動(栽培、調理)を傍から見る、雰囲気を味わう、などから進めている。そのため保育士は併設園で行う田植え、野菜の栽培や季節毎の調理活動にはできる限り参加をし、0、1歳児にも食への関心を持たせたいとしている。保護者へは毎月の献立表、給食だより、クラスだより、園内掲示で食の取り組みを知らせ、子どもの誕生日には保護者も一緒に試食をしている。

7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. けがや病気を防止するため、日頃から身の回りの危険について子どもに伝えている	○ 非該当
●あり ○なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに対し、専門機関等との連携に基づく支援を行っている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者に対して感染症や乳幼児突然死症候群(SIDS)等に関する情報を提供し、予防に努めている	○ 非該当
評価項目7の講評		
<p>子どもの健康状態を把握し、危険や安全にはその都度子どもに伝えている</p> <p>看護師は、一人ひとりの健康状態を児童票、週日記録、視診表から把握しており、登園時の子どもの様子を保育士と共に視診を行っている。保育室は1階と2階にあるため、移動は階段とエレベーターを使い分けている。階段やエレベーターを使用するときは、子どもにもわかり易い言葉で、危険や安全について知らせている。また、感染症の予防は、楽しい手洗いの歌を歌いながら、手洗いの習慣が身につくよう支援している。一人ひとりの健康管理は嘱託医による定期健診を年2回実施、毎月身体計測を行い、その結果は連絡帳に記入し保護者に伝えている。</p> <p>医療的ケアの必要な子どもについては、専門機関などと連携した実績がある</p> <p>子どもの健康状態には特に気をつけて保育をしているが、保育中の急な子どもの体調不良や怪我等が起こった場合には、看護師が子どもの状態を園長に伝え、園長の判断のもとに医療機関を受診している。また、薬の預かりは医師の処方のみとし、1日1回、薬剤名や服薬時間を「薬依頼書」に保護者が記載し提出する(服薬は看護師対応)。医療的ケアが必要な子どもについては、すでに受け入れた経験があり、専門機関などとの連携を図るなど、医療ニーズを持つ子どもを受け入れる体制がある。</p> <p>入園のしおり等で「乳幼児突然死症候群」についての注意喚起を図っている</p> <p>入園のしおりに子どもが罹りやすい感染症の一覧表を載せ、罹患した後の登園基準などについて説明している。毎月発行する「保健だより」でも取り上げ、保護者に情報を提供しているが、食中毒やインフルエンザなどの流行期には随時掲示をしたり、手紙で呼びかけている。入園のしおりには「乳幼児突然死症候群(SIDS)」についても解説しており、子どもを一人にしないことや、乳児用呼吸モニターで観察をしている園の取り組みを紹介し、家庭でも赤ちゃんを守るための手立て(仰向けに寝かす等)を具体的に挙げ注意喚起を図っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇●●)
評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して接している	○ 非該当
○あり ●なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
●あり ○なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
●あり ○なし	4. 保育所の保育に関して、保護者の考えや提案を聴く機会を設け反映させている	○ 非該当
○あり ●なし	5. 子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催し、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当

評価項目8の講評

時間延長には随時柔軟に対応しているが、意識的な保護者同士の交流設定が望まれる

365日開園の本園は、保育時間や時間延長には随時柔軟に対応している。保護者の子育て状況や就労状況等は個人懇談(年2回)や送迎時の対応、連絡帳等からも把握しており、急な時間延長(視診表の特記事項に記載)にも快く対応している。また、引き継ぎもミーティング等で職員間で共有されている。保護者同士が交流する機会としては行事を通してや、参観日、クラス懇談会(年1回)、保護者会(年1回)等で行われていると思われるが、意識的に交流する機会とは捉えられておらず、今後の取り組みに期待する。

成長が著しい0、1歳児は、保護者との連携は特に大切だと認識し取り組んでいる

本園の基本方針である、「いつでも安心して利用できる保育サービスの提供改善に努めます」を念頭に全職員が丁寧な対応を心がけている。特に、送迎時の保護者とのコミュニケーションには留意している。中でも、成長が著しい0、1歳児は保護者との連携が大事であることを折に触れて伝え、園生活の様子を詳細に伝えている。こうした日々の積み重ねが保護者との信頼関係に繋がっている。利用者調査(保護者調査)からも「色々な話しや相談ができる」と評価されている。

保護者の意見や提案の場はあるが、保護者支援の充実を期待する

保育に関して保護者が意見や提案をする場は、保護者会総会(年1回)、役員会(年2回)、クラス懇談会(年1回)、ご意見箱、行事アンケート等があるが、最近では本園の創立10周年記念行事の実施にあたり保護者から様々な提案や協力を得ている。保護者との共通認識を得る取り組みは、併設園と合同で参観日(年3回)の後に主任、リーダー会議で企画した、育児講座(しつけについて等)を開催しているが、単発的であり、今後は保護者支援について、計画的な取り組みを期待する。

9 評価項目9

地域のニーズに即した子育て支援を実施している

評点(〇〇〇)

評価	標準項目	
●あり ○なし	1. 地域における在宅子育て家庭のニーズに応じた子育て支援事業を実施している	○非該当
●あり ○なし	2. 地域における在宅子育て家庭同士が交流できるような支援を行っている	○非該当
●あり ○なし	3. 提供している子育て支援事業の評価・見直しをしている	○非該当

評価項目9の講評

地域のニーズに応じて子育て支援事業を活発に展開している

在宅子育て家庭への支援は保育所に課せられた役割である。本園も地域の子育てに関するニーズに応えるべく自治体の委託を受け一時預かり保育、育児相談、出前講座、子育てサークル支援等の子育て支援事業を担当職員を配置して実施している。一時保育は登録制が原則であるが、電話等での緊急依頼にも対応している。出前講座は、公民館等に出向き季節的にお正月遊び、ペープサート等を、また、子育てサークル支援は、自治体との話し合いで3組のサークルの支援を担当しており、自主的なサークル活動を側面から支援している。

子育て支援事業に参加する家族同士、顔見知りの関係ができています

出前講座等の催しのつどチラシを作成して自治体を通して各子育て支援センター、公民館、保健センター、児童館など子どもや保護者が集まりやすい場所に情報提供している。園庭開放や子育てサークル等の支援事業に参加する家族同士、顔見知りの関係になり交流が生まれている。催しの様子は、反省と共に記録に残し次回の催しに活かすように努めている。

社会福祉法人こうほうえん  
キッズタウン 24 第 2 保育園

特定非営利活動法人メイアイヘルプユー

2011 年度第三者評価総評

本園の第三評価の受審は、前回は 2009 年 1 月、今回が 2 回目である。前回との相違点は、①東京都福祉サービス評価推進機構が定める評価基準の使用（前回は、厚生労働省発出、保育所版「福祉サービス第三者評価基準ガイドライン」を使用）、②評価の根拠とした情報の違い（前回は、園長など管理者の自己評価及び聞き取り調査と資料・文書類。今回は、これに加え、職員自己評価と利用者（保護者）調査を実施し、この結果を評価の根拠として採用。）である。

特に優れている点

1. 保護者と緊密な連携で保育を実践している

本園は、成長が著しい 0、1 歳児のみを受け入れている保育園である。そのため保護者との緊密な連携が極めて大切なことを意識して保育を進めている。登園時は常駐する看護師と保育士が子どもの受け入れをし、健康状態（体温や排泄など）や食事の進み具合（乳汁、離乳食を含む）などを、保護者と共に確認している。また、家庭での子どもの生活リズムなどをしっかりと把握し、園生活に生かすため、本園独自の連絡帳を作成し活用している。お迎えの保護者とは、服薬がある時は確かに服薬したことを確認し、また子どもの新たな変化、気づきを相互に交換し合い、コミュニケーションをしっかりと取っている。

2. 発達に見合った豊富な保育が提供されている

保育目標を実践する際に「様々なことに興味を持ち、意欲的にチャレンジをする」を視点としており、0、1 歳児の感覚機能や運動機能を踏まえ、発達段

階に則した豊富な絵本やおもちゃが準備されており、中には保育士の手作りもある。また、2歳児以上を受け入れている「キッズタウン 24 かみごとう」が併設されているので、自由遊びや行事などの機会に、2歳児以上の子どもたち・異年齢児と交流する機会も多い。園庭や遊戯室での遊びには、併設園の子どもたちが声をかけてくれたり、一緒に遊んでくれるなど、発達支援の一つといえよう。さらに、園には、随所に生き物の飼育や草花が栽培され、子どもの興味を引き、また気分転換にもなっている。計画的な散歩による自然とのふれあい、そして併設園の子どもたちの栽培活動の見学など豊富に準備されている。利用者（保護者）調査の設問「保育所の生活で身近な自然や社会と十分に関わっているか」では、94.6%が「はい」と回答している。

### 3. 「食育」の取り組みが充実している

献立は、栄養士、厨房職員、園長、主任、クラス担任、看護師で構成する月1回の給食委員会で各立場からの意見を出し、検討している。献立は地元の食材にこだわり、自前の煮出し汁を使い、薄味にした和食中心の献立である。きめ細かく保護者と相談の上、それぞれの発育に対応している。

また、保育士と共に併設園の園児達の夏野菜の栽培や調理活動を傍から見る機会を作り、食に対する関心を持たせようとしている。

## 改善が必要とされる点

### 1. 今後の事業の見通しを持つためにも、地域・事業環境に関する情報の把握と分析に組織的な取り組みが求められる

法人の理念である「地域」を意識した取り組みは、行政委託の子育て支援センターの積極的な活動や地域の関係機関との連携に見ることができる。一方、利用者ニーズから「地域」を見ると、近年、延長保育の利用者が減少していること、また鳥取県では入園希望児の待機者数はゼロと報告されている現状の中で、本園を取り巻く地域のニーズに対する明確な見解を聞くことはできなかった。行政情報や地域の保育に対するニーズとその変化などに関する情報の把握とそれを整理・分析し、今後の方向性を検討する組織的な体制が不明確である。

仮に法人本部がその役割を担当しているとしても、現場職員の今後の活動やモチベーション、雇用などに影響することでもあり、体制や意思決定について明確にすることが望ましい。25 年度は、本法人へ公立保育園の民間移管がされることが決まっており、これを機会に、体制作りに取り組まれることを期待する。

## 2. 人材育成に関する職員の不満を分析し、対策を講じることが求められる

法人が大切にしている価値観の一つに「職員こそ大事」と表し、人材育成に積極的に取り組んでいる。研修に力を入れ、併設園と合同で取り組んでいる。研修担当者は年間計画を立て、2 か月毎の内部研修を実施、また外部からもスーパーバイザーを招いて、事例検討など実践的な研修内容である。管理者は、担当者の企画力・実践力が向上していると評価、また職員のやる気の向上に影響している取り組みとして、研修の一企画である年齢別クラスの公開保育（他のクラスの担当者が参観する）とその後の意見交換会を挙げている。さらに、年度の研修課題を決定する際には、本園の保育目標「心も体も元気な子」を掲げ、体力づくりや食育を課題とし、具体策な保育内容を決定し取り組んでいる。

課題として、職員自己評価では、研修に行きやすいというコメントが複数寄せられているが、一方、新人教育をもっと具体的にした方がよいという提案、希望する研修に参加でき難いことや職員の力を生かし切れていないのではないかという不満が寄せられている。職員自己評価の評価項目「職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる」では、リーダー層・一般職員共に評価は高くない。園長も研修への参加は不十分であると認識している。この課題への対応として、法人として実施している人事考課・目標管理表を使った個人別育成計画の作成の機会を活用することが一案とも思われる。

## 3. 保護者に対する就労支援のみではなく、共に子どもを育てる観点からの取り組みに期待する

本園は、365 日の開園であり、また保護者の利用時間には柔軟に対応し、利用者調査（設問：「保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか」）では、81.1%が「はい」と回答している。一方、同じ子育て中の保護者同士の交流を促すことや、子どもの発達や育児などについて、懇談会や勉強会を開催

し、共通認識を得るための取り組みは弱い。子育て支援は、就労支援のみではない。保育士、看護師、栄養士などの専門職が持つ、子どもを育てる上での様々な知識や、実践から得た豊富な経験を保護者に伝え、語り合い、共に子どもを育てて行くことが保育所の役割として求められる。今後の取り組みとその充実に期待する。